

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191100052		
法人名	株式会社総合福祉ひまわり		
事業所名	グループホーム市之倉ひまわり		
所在地	多治見市市之倉町13丁目83番地の353		
自己評価作成日	令和7年2月11日	評価結果市町村受理日	令和7年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2191100052-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和7年3月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様、御家族様、スタッフが極力近い距離で居られるよう、御家族様との連携を密にし、家庭的な温もりのある雰囲気作りを大切にしている。長く勤めている介護職員も多く、入居者様の小さな変化に気付く力がありチームワークも強い。また看取り介護も対応しており、その人らしく最期を迎えられるように努めている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>法人は、この事業所以外にも、デイサービスや小規模多機能、居宅介護支援等の利用者サービスを運営しており、様々な場面で連携しながら、地域住民の介護相談にも応じている。事業所は、隣の幼稚園から園児の明るい笑い声がこだまする環境にあり、行事等で園児の訪問を受けた際には、利用者は笑顔で交流を楽しんでいる。代表は、経験豊富な職員を、さらに専門職としてキャリアアップできるように支援し、利用者サービスの質の向上に繋がるよう尽力している。職員は近隣在住で勤続年数の長い職員も多く、利用者が常に笑顔で穏やかに過ごせるよう支援に取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共有できるように努力している。職員会議で確認し職員は日常の支援の中でお互い理念に叶った支援をしているかどうかを指摘している。	理念は、「利用者の尊厳と笑顔あふれる介護」とし、職員の目に留まりやすい場所に掲示している。日々、職員各自が確認して業務にあたり、毎月の職員会議でも、ケアを振り返りながら、理念の共有と実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍前は地域の行事、夏祭り、餅つき大会に職員、利用者様が参加していた。また認知症カフェも開催し地域の住民が集まってきた。現在はまだコロナの影響があり再開出来ていない。	自治会に加入し、回覧を通じて地域の行事予定を把握している。コロナ禍以前のような地域交流は出来ていないが、ホーム周辺の清掃に努めている。今後は、地域と連携しながら、夏祭りの計画に取り組む予定である。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況や人員状況、事故等を報告し要望等を聞いている。頂いたご意見をサービス向上に生かす努力をしている。地域での問題についても話題に上がることもあり問題解決に繋がる事もある。参加者の協力が強く意見交換が活発に出来ている。	運営推進会議は、行政、地域代表、老人クラブなどの参加を得て開催している。行事報告や今後の予定、利用者の状態などを説明し、事故報告については、状況や原因、対応策について意見交換を行っている。参加メンバーからの助言や意見等をサービスの向上につなげている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村とは、運営進会議へ参加して頂いたり、困った事や事故報告等に関して積極的に相談して、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議に市担当者の参加を得ており、地域高齢者の現状、介護保険制度の動向について説明を受けている。日常的に連携を密にし、手続き等の相談や事業所の状態を報告している。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束と虐待の研修を2名受講。その研修内容を会議の時勉強会として学び全職員で共有している。	定期的に同法人事業所と合同で、身体拘束等の適正化のための委員会を開催している。外部講師による研修会を行い、実例を挙げて話し合っている。玄関の施錠も身体拘束であることを認識し、利用者に寄り添い拘束をしないケアに取り組んでいる。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で虐待防止委員会を設置しているので、回覧等で虐待防止を徹底したり、どのような行動、言動が虐待に相当するのかを会議の中でスタッフに説明し虐待に対する意識を高めている。	虐待防止委員会を定期的に開催している。無意識に使っている言葉が、心理的虐待及び行動を制限するスピーチロックであることを認識すべきと捉え、研修を重ねている。管理者は、職員とコミュニケーションを図りながら、精神面のサポートにも努めている。	

岐阜県 グループホーム市之倉ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者ケアマネが研修に参加して活用に備えている。以前日常生活自立支援事業を利用していた入居者様がいて社会福祉協議会、市の高齢福祉課と連携し支援した経験もある。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧に説明し起こりうるリスク、重度化についての対応等について詳しく説明をしている。不安なことが無いかなど、具体的にこちらから尋ねて納得して頂いている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様、御家族様の意見は運営推進会議でお話して頂いたり、御家族様が面会やご来所の際に何でも気軽にスタッフに話せるようにしている。また電話やメールの際にこちらから意見を引き出せるようにしている。ご意見箱も設置している。	管理者は、家族の訪問時にはゆとりを持って意見や希望を聞くよう心がけている。訪問が難しい家族には電話、メールで意見を聞いている。毎月送付するひまわり便りで、利用者の状態を詳細に報告しており、家族からも喜ばれている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見を聞くようにしている。その内容を施設会議、又直接社長、施設長に職員の意見を伝えている。	管理者も現場に入っており、日頃から、職員の意見や提案等を聞き、把握している。出来る事は速やかに対応し、組織としての対応が必要な時は手順を踏んで回答している。職員は気兼ねなく意見等を表出することができ、ボトムアップの組織体制となっている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	管理者、管理者代理が現場の中で個々の勤務状況を把握して社長、施設長に伝えている。	ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境作りに取り組んでいる。管理者は、職員の資格取得や研修参加を推奨し、その情報も提供している。研修受講の際には、勤務調整をしながら支援している。	
12	(10)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、管理者代理はスタッフの資格や経験、介護技術の力量を把握し、会議等で介護技術の問題をテーマにして社内研修を行っている。又新入社員が聞きやすい雰囲気作りに努めている。	職員それぞれの経験や資格、力量に応じて、レベルアップ出来るよう社内研修を実施している。様々な社内研修を重ねながら、経験豊富な先輩職員が後輩を育てるなど、利用者へのケア向上につなげている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	ケアマネが多治見市が開催するサービス事業者との交流会に参加して、他事業者との交流を続けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの入居者様が何が出来るかを把握し毎日の生活の中で出来る事をお手伝いして頂き、入居者様同士がお手伝いをしながらお互いにコミュニケーションを図れるようにしている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人様から希望が聞けない方は、職員の毎日の関わりの中から声掛けをしながら把握に努めている。	個別ケアの際に、利用者の何気ない仕草や表情などを見逃さないよう心掛けている。また、利用者が安心して話せるよう傾聴に努めている。知り得た情報は職員間で共有しながら、利用者の希望が実現できるよう取り組んでいる。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人様の想いを聞き、御自分の想いを伝えられない入居者様は御家族様より想いを聞き出し、また面会時に御意見を新たにお伺いし、意見交換、見直しを図り、現状に合った介護計画を作成している。	介護計画作成時は、家族の希望を聞き、より良い計画作りに向けて、家族参加にて意見交換を行っている。参加が難しい場合は、面会時に時間をかけて意見交換し、現状に即した介護計画作り努めている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の少しの変化や気付きは毎日の介護記録に残し、申し送りノートに細かく記載し職員全員で情報共有している。また介護計画の見直しにも活かしている。	介護記録には、利用者の日々の状態を詳細に残し、利用者の変化や職員の気づきは、申し送りノートに記載している。口頭でも伝え、情報を共有している。介護記録の内容を計画の見直しに活かしている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人様、御家族様の状況や通院等の必要に応じて支援している。通院は行っているがコロナ禍になってから外出支援はまだ再開していない。外出支援は個別で支援し入居者様は楽しみにしている。	利用者の状態を見ながら、福祉用具の利用やリハビリテーションを取り入れた方が望ましい場合は、家族と話し合いながら支援している。家族から依頼あれば、専門医への受診同行を行っている。	

岐阜県 グループホーム市之倉ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民間の理美容の提供を行っている。またコロナ禍以降行っていないが演劇、大正琴の演奏、ピアノの演奏等ボランティアの協力で楽しい時間を過ごしている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人様、御家族様の希望を聞き、安心適切に医療が受けられるように支援。現在全員訪問診療対応、内科以外基本御家族様対応だが、御家族様都合が悪い場合のみ看護師対応にて付き添い受診、結果等その都度御家族様に報告している。	入居時に、かかりつけ医についての事業所の方針を説明している。現在、ほとんどの利用者が協力医を選択し、定期的な往診を受けている。事業所の看護師が日常的に利用者の健康管理を行い、緊急時にも適切に医療が受けられるよう支援している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	情報を提供し、時々面会、状態を把握、御家族様とも連携、退院後に安心して暮らせるようにしている。また病院の相談員とも情報交換し主治医に直接聞くこともできる。退院時にはカンファレンスに参加して安心して生活できるよう支援している。	入院時には、看護師が医療機関に利用者情報を提供し、家族と連絡を取り合いながら、利用者が安心して療養できるよう支援している。また、早期退院に向けては、退院カンファレンスの参加し、事業所の受け入れ態勢を整えている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化については入居時に説明しているが終末期のケアについては御本人様、御家族様の想いに添える24時間体制の医療連携を整え、重度化指針の作成をしている。	重度化や終末期に向けた事業所の方針は、入居時に家族と利用者に説明し同意を得ている。利用者の状態変化時は、早い段階で関係者が話し合い方針を共有している。医師の意見と家族の希望を尊重し、看取り指針に基づいた支援に取り組んでいる。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署が行うAED操作、人工呼吸蘇生訓練を実施している。今後も定期的に訓練、研修を行う予定。事務所内にマニュアルが提示してあり職員が何時でも目を通せるようにしてある。また事前に起こり得るリスクも入所時に説明し同意を得ている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し年2回入居者様と共に消防署の協力で訓練を行っている。町内会に入会し地域の活動に参加する機会も増えてきているので、地域の人と一緒に訓練し協力体制を築くようにしていきたい。	年2回夜間想定を含めた防災訓練を行い、運営推進会議で報告し助言を得ている。職員は役割分担をしながら訓練に取り組み、利用者の避難誘導については、課題点の改善に取り組んでいる。備蓄品の管理も適切に行っている。	近年、地震や水害だけでなく、様々な自然災害も多い。地域と一緒に災害対策に取り組むには、まずは地域の防災訓練に積極的に参加し、協力体制作りを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様とのプライバシーを損なわない対応を心掛けている。職員会議の際に職員の意識の向上を図っている。人格を否定するような対応をした職員には現場で管理者、看護師、リーダーが注意するようにしている。	入浴や排泄支援は、特に利用者の羞恥心に配慮するよう努めている。入浴拒否がある場合は、穏やかな声掛けを心がけ、利用者の決定を尊重し支援している。毎年研修で、利用者尊重について学ぶ機会を設け、意識付けを行っている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が些細な事でも選択出来るような場面を提供するように心掛けている。言葉で意思を表せない入居者様には表情やふとした行動から汲み取って対応している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の流れはあるが、その人その時のペースや気分、体調に応じて極力その方に合った柔軟な対応を可能な限りしている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、後片付けは入居者様に手伝ってもらっている。またクリスマス会やお誕生日、おせち料理等バイキング形式にして大変喜ばれている。	食事は、ご飯と汁物は職員が作り、副食は配食サービスを利用しているが、利用者の状態に合わせた食事形態で提供している。準備や後片付けは利用者も出来る事に関わっている。イベント食やおやつ作りは、利用者が中心となって行っている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の体調と1日の食事量、水分摂取量を把握している。入居者様の状態に合わせて食べやすい食事形態で提供している。水分をあまり摂られない入居者様には1日を通して確保できるよう根気強く対応している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの手伝い、介助を行っている。入れ歯の方は職員又は御自分が洗われた後、職員が確認して清潔保持をしている。夜間はポリドントにつけて消毒をしている。	毎食後、口腔ケアを実施している。できない部分は職員が介助し、清潔保持を支援している。職員は、入れ歯の状態に不具合はないか、本人に確認したり、治療が必要な場合は家族に連絡し、歯科受診につなげている。	

岐阜県 グループホーム市之倉ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を作成し一人一人の排泄習慣、リズムを掴み、オムツ使用を減らす努力をしている。立位が難しい方でも尿意がある場合、事故の無いよう職員二人対応でトイレ誘導、介助をしている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本は曜日を固定しているが、その方の体調や気分により入れ替えをしている。その方の希望に添えるよう支援をしている。またストレッチャー浴槽もあるのでほしいレベルに合わせて活用している。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は一人一人の生活習慣や体調に応じ休息をとってもらっている。また清潔で気持ち良く安眠出来るように入居者様に担当スタッフを付け、寝具干し、シーツの洗濯を確実にしている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様全員の服薬している薬はスタッフ全員が何時でも把握、確認できるようにしている。また服薬管理表を作成し、セット時にも与薬直前にも声出しダブルチェックを行っている。薬の内容が変更になった時は申し送りや口頭で情報共有している。	薬の管理は看護師が行い、担当職員が責任を持って服薬支援を行なっている。利用者が飲み終えるまでを確認し、落薬や誤薬を防止している。服薬変更時は看護師の説明を受け、全職員に周知している。服薬後の状態変化を注意深く観察し、変化が見られる場合は、看護師に連絡している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人何ができるのかを職員が把握し役割分担し、参加してもらい労いの言葉掛けをし次へと繋げる。またお誕生日会や年間イベント等にも力を入れ楽しんで頂けるようにしている。	利用者は、居室、共用の場所、廊下などの掃除に積極的に参加している。「皆さんできれいにしましょう」を合言葉に行っている。作品作りは、それぞれが得意な分野で関わっている。職員は、労いと感謝の声掛けをし、利用者の自信につなげている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に御本人様の要望があれば、外への散歩は出かけている。またコロナ禍でも車でのドライブも何回か行き気分転換を図った。また徐々に外出支援も再開していきたい。	日常は事業所周辺の散歩やベランダでの外気浴を楽しんでいる。コロナ禍もドライブ外出で気分転換を図っていた。家族との外食や買い物に出かける人もある。今後、年間計画に沿って、外出支援を増やしていくとしている。	

岐阜県 グループホーム市之倉ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1名がお財布を御自分で管理している。あと2名ほどお財布をお預かりしている。外出支援をした時に使えるよう支援していく。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様のご要望で、日曜日の休みの日等に御家族様に電話をし、御本人様と代わり話す機会を設けている。携帯電話で御家族様と連絡を取り合ったり手紙を出して近況報告される方もある。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所に居間兼食堂がワンフロアになっている。フロアの一角に休むスペースが用意しており、見守り必要な方は日中フロアのベッドで休む事もある。壁には入居者様の作品が貼ってあり季節感あふれるフロアになっている。	共用の空間は広く、福祉用具が必要な利用者が安全に移動することができる。季節を感じる生花を飾り、職員と共に作成した多くの利用者作品を掲示し、それらを眺めながら楽しめる空間となっている。居室にも記念の作品を飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を配置して外を眺めながら会話のできるスペースをつくっている。そこから隣のひまわり幼稚園の園児が遊んでいる姿を見ることが出来て、入居者様の楽しみの空間になっている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に御自宅での生活環境を変えず極力使い慣れた物を持ち込んで頂き、居心地良く過ごして頂けるようにしている。また導線を考慮し居室で安全に生活できる工夫をしている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人でも出来る方には御本人様に分かりやすいように表示したり工夫をしている。認知機能が低下してきてても不安を取り除く為、スタッフが付き添う事で出来る事が多くなるので、その人のレベルに合った自立した生活が出来よう工夫をしている。		